

平成17年度中間決算報告書

(平成17年12月20日訂正版)

※訂正箇所を下線()で表示しております



株式会社エフエム東京

平成17年11月7日
(平成17年12月20日下線部訂正)

報道各位

株式会社エフエム東京

平成17年度中間期業績の概況

当上半期におけるわが国経済は、原油価格の高騰や厳しさが残る雇用情勢等一部に懸念材料はあるものの、個人消費が持ち直し設備投資も緩やかに増加するなど、景気は踊り場を脱却する状況下で推移いたしました。

放送業界におきましては、民放連の平成17年度テレビ、ラジオ営業収益見通しによると、テレビは前年同期比0.4%増の微増予測となりましたが、ラジオは2.5%減、そのうち、中波、短波は2.6%減、FMは2.4%減と予測され、依然として厳しい事業環境が続いています。一方、ブロードバンドの普及や第三世代携帯電話端末の普及、着メロや着うたなど高機能・高品質なコンテンツ・サービスの普及により、インターネット業界およびインフォメーションプロバイダー業界は引き続き高い成長性が見込まれています。

このような状況の中、当社グループの連結売上高は、161億5千6百万円（前年同期比11.8%増）となりましたが、営業利益は2億4千5百万円（前年同期比27.4%減）、経常利益は1億7千7百万円（前年同期比41.1%減）となりました。中間純損失は2億4千1百万円のマイナス（前年同期比6億1千1百万円減）となりました。その主たる要因は、子会社取得に伴う連結調整勘定約4億1千9百万円の発生によるものです。

当社単独業績につきましては、営業収益は118億3千5百万円（前年同期比6.9%減）、営業利益は3億2千7百万円（前年同期比32.8%減）、経常利益は4億1千7百万円（前年同期比16.6%減）、中間純利益は2億3千1百万円（前年同期比7.2%減）となりました。

<放送事業活動>

FM放送事業においては、平成15年末に登場して以来すでに600万台を突破したFMケータイリスナー向けに、日本初の楽曲ダウンロードチャート番組をスタートさせたほか、携帯音楽プレーヤーなどにラジオ番組を入れて持ち歩く新しい聴取形態に対応するため、8月から「エキサイト」と共同して、ポッドキャスト配信を本格的に開始しました。

また、ブロードバンドがより普及する中で、FM放送番組とインターネットを連動させたサービスによる新たな事業収益拡大を図るため、全国FM放送協議会加盟38局による生活提案型のWebサイト「Reco（レコ）」を8月に立ち上げました。

一方、「アースコンシャス・マインド」の啓蒙を図るイベントとして今年で16回目を迎えた「アースデー・コンサート」の世界中継や、5年目を迎えたリスナーとパーソナリティ参加による富士清掃登山など、リスナーの支持に支えられた恒例の放送企画を当上半期も実施し、好評を得ました。

地上デジタルラジオ放送に関しては、総務省「デジタル時代のラジオ放送の将来像に関する懇談会」の報告書が7月に発表され、平成18年にも本放送を開始する方向性が示されました。これを受け、当社をはじめとする在京民放ラジオ5社は共同で事業会社を設立することで合意し、事業計画の策定、出資の呼びかけなどの会社設立作業において当社は中心的な役割を担ってまいります。

また、衛星放送事業においては、株式会社ミュージックバードが、従来よりサービスを行ってきたPCM音楽放送（非圧縮デジタル変調方式）に加え、6月から最大155チャンネルの放送を楽しめる衛星デジタル放送「SPACE DiVA（スペース・ディーバ）」のサービスを開始しました。

<企画制作事業>

当社のイベント事業において、ロンドン発のロックミュージカル「ウィ・ウィル・ロック・ユー」、ブロードウェイ・ミュージカル「シカゴ」など当上半期のエンタテインメント界を代表するイベントを開催いたしました。また、今年4回目を迎えた首都圏における夏の広域イベント「グレーター・トウキョウ・フェスティバル」では、英国サッカープレミアリーグの強豪マンチェスターユナイテッドを招聘したほか、夏の夜の日比谷公園での食の祭典「日比谷フェスタ」などを開催し、期間中、昨年を95万人上回る500万人を動員しました。

<インフォメーションプロバイダー事業>

当社連結子会社であるジグノシステムジャパン株式会社は、当社との協業ビジネスをより拡充させるため、CM楽曲制作会社である株式会社サーティース、CM楽曲権利マネジメントを行う株式会社ユナイテッド・ワールド・ミュージックの2社を4月に子会社化しました。また、当社との協業による携帯サイト「MUSIC VILLAGE」は、FM放送番組出演アーティストのスタジオライブの着うた配信や出演アーティストからのメール配信サービスなどをセールスポイントに、9月末現在で2万6千人の有料会員数を獲得しており、今期中5万人の達成を目指しています。

<その他の事業活動>

出版事業に関しては、これまでに当社が出版してきた音楽を始めとするカルチャー関連書籍の大型店頭特集「TOKYO FM 出版 音楽書フェア」を4月より紀伊国屋書店本店やタワーレコード各店などで展開した他、人気ミュージシャンのCDブックを携帯サイト上で販売するなどのクロスメディア・ビジネスにも着手いたしました。

また、当社とジグノシステムジャパン株式会社との協業により新しい物販サイト「Shopping Tower」を10月から開始いたしました。

以上

平成18年3月期 中間決算短信（連結）

会社名 株式会社 エフエム東京
 本社所在都道府県 東京都（URL <http://www.tfm.co.jp/>）
 代表者 役職名 代表取締役社長 氏名 富木田 道臣
 問合せ先責任者 役職名 経理部長 氏名 東 和志 TEL (03)3221-0080（内線）2440
 決算取締役会開催日 平成17年11月7日

1. 17年9月中間期の連結業績（平成17年4月1日～平成17年9月30日）

(1) 連結経営成績 (金額は百万円未満切捨)

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17年9月中間期	16,156	11.8	245	△ 27.4	177	△ 41.1
16年9月中間期	14,447	△ 2.3	338	7.4	302	△ 32.7
17年3月期	33,056		1,097		941	

	中間（当期）純利益		1株当たり中間（当期）純利益	
	百万円	%	円	銭
17年9月中間期	△ 241	—	△ 269	77
16年9月中間期	369	24.6	411	98
17年3月期	354		332	07

- (注) 1. 持分法投資損益 17年9月中間期 △36百万円 16年9月中間期 △31百万円
 2. 期中平均株式数(連結) 17年9月中間期 896,355株 16年9月中間期 896,355株
 3. 会計処理の方法の変更 有
 4. 売上高、営業利益、経常利益、中間（当期）純利益におけるパーセント表示は、対前年中間期増減率
 5. 営業費用に含まれる連結調整勘定の償却額
 17年9月期 419百万円 16年9月期 100百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本	
	百万円	百万円	%	円	銭
17年9月中間期	56,851	29,278	51.5	32,664	15
16年9月中間期	42,033	29,537	70.3	32,953	32
17年3月期	57,284	29,627	51.7	32,989	90

- (注) 1. 期末発行済株式数(連結) 17年9月中間期 896,355株 16年9月中間期 896,355株

(3) 連結キャッシュフローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
17年9月中間期	△ 232	△ 0	△ 244	13,789
16年9月中間期	289	△ 4,892	△ 42	11,350
17年3月期	1,088	△ 12,399	9,467	14,151

(4) 連結範囲及び持分法の適用に関する事項

連結子会社数 12社 持分法適用関連会社数 5社

(5) 連結範囲及び持分法の適用の異動状況

連結（新規） 4社

2. 18年3月期の連結業績予想（平成17年4月1日～平成18年3月31日）

当連結会計年度の見通しにつきましては、精査中でございます。

平成17年11月7日

平成18年3月期

個別財務諸表の概要

会社名 株式会社 エフエム東京
 本社所在都道府県 東京都 (URL <http://www.tfm.co.jp/>)
 代表者 役職名 代表取締役社長 氏名 富木田 道臣
 問合せ先責任者 役職名 経理部長 氏名 東 和志 TEL (03)3221-0080 (内線) 2440
 決算取締役会開催日 平成17年11月7日 中間配当制度の有無 有
 単元株制度採用の有無 無

1. 17年9月中間期の業績 (平成17年4月1日～平成17年9月30日)

(1) 経営成績

(金額は百万円未満切捨)

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17年9月中間期	11,835	△ 6.9	327	△ 32.8	417	△ 16.6
16年9月中間期	12,712	△ 4.9	486	88.5	500	62.2
17年3月期	27,318		1,240		1,235	

	中間(当期)純利益		1株当たり中間(当期)純利益	
	百万円	%	円	銭
17年9月中間期	231	△ 7.2	256	88
16年9月中間期	249	88.6	276	91
17年3月期	267		259	10

(注) 1. 期中平均株式数 17年9月中間期 900,000株 16年9月中間期 900,000株

2. 会計処理の方法の変更 有

3. 売上高、営業利益、経常利益、中間(当期)純利益におけるパーセント表示は、対前年中間期増減率

(2) 配当状況

	一株当たり 中間配当金		一株当たり 年間配当金	
	円	銭	円	銭
17年9月中間期	30	00	—	—
16年9月中間期	30	00	—	—
17年3月期	—	—	75	00

(3) 財政状態

	総資産		株主資本		株主資本比率		1株当たり株主資本	
	百万円		百万円		%	円	銭	
17年9月中間期	48,841		29,786		61.0	33,096	15	
16年9月中間期	39,313		29,486		75.0	32,762	56	
17年3月期	49,187		29,565		60.1	32,812	96	

(注) 1. 期末発行済株式数 17年9月中間期 900,000株 16年9月中間期 900,000株

2. 期末自己株式数 17年9月中間期 — 16年9月中間期 —

2. 18年3月期の業績予想 (平成17年4月1日～平成18年3月31日)

通 期	売上高	経常利益	1株当たり年間配当金					
			中 間	期 末				
	百万円	百万円	円	銭	円	銭	円	銭
	29,211	1,300	30	00	30	00	60	00

前期比較営業収益内訳書(個別)

平成17年 4月 1日より
平成17年 9月30日まで

	第40期中間期 (16. 4. 1~16. 9. 30)	第41期中間期 (17. 4. 1~17. 9. 30)	前期比
	千円	千円	
営業収益	12,712,405	11,835,554	93.1%
<u>放送事業収入</u>	8,192,635	8,056,440	98.3%
<u>放送収入</u>	6,259,547	5,992,644	95.7%
<u>タイム放送料</u>	4,540,261	4,272,462	94.1%
<u>スポット放送料</u>	1,719,286	1,720,182	100.1%
<u>制作収入</u>	1,092,498	1,260,028	115.3%
<u>その他</u>	840,588	803,767	95.6%
<u>企画事業収入</u>	3,940,093	3,337,278	84.7%
<u>賃貸事業収入</u>	265,206	145,610	54.9%
<u>その他事業収入</u>	314,470	296,225	94.2%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

41 期(上期)広告会社取り扱い順位

<総合順位>

41 期	40 期	広告会社
1	1	博報堂 DY メディアパートナーズ
2	2	電通
3	3	ビデオプロモーション
4	4	アサツーディ・ケイ
5	5	放送文化事業
6	13	オリコム
7	7	ガイアコミュニケーションズ
8	15	毎日広告社
9	6	マッキャンエリクソン
10	10	京橋エイジェンシー

<タイム>

41 期	40 期	広告会社
1	1	博報堂DYメディアパートナーズ
2	2	電通
3	3	ビデオプロモーション
4	4	放送文化事業
5	10	オリコム
6	6	アサツーディ・ケイ
7	12	中宣メディア
8	5	協同広告
9	11	ガイアコミュニケーションズ
10	9	フジサンケイアドワーク

<スポット>

41 期	40 期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	10	毎日広告社
4	5	アサツーディ・ケイ
5	3	ガイアコミュニケーションズ
6	6	京橋エイジェンシー
7	4	マッキャンエリクソン
8	9	アイントエス・ビー・ビー・ティオー
9	11	コスモコミュニケーションズ
10	7	東急エージェンシー